

広州日本人学校での生活

三郷市立戸ヶ崎小学校

教諭 嶋津輝夫

広州の概略と生活の様子

私が赴任した広州は北京、上海に次ぐ中国第3の都市であり、華南地区の経済の中心地であるだけでなく、文化、教育の中心地であり、多くの華僑の故郷です。地理的には、台湾の南端と同じくらいの緯度であり、香港とマカオが近く、気候は亜熱帯性で降雨量が多いです。アジア圏の地図で見ると、東アジアと東南アジアを結ぶ要所であることがよくわかると思います。そんな広州は、流動人口1000万人以上といわれており、総生産額も毎年右肩上がり、その勢いを肌で感じる事が多々あります。体感としては夏の初めと終わりが長いけれど、一方で冬は意外と寒く感じます。自動車工業の中心地として栄えており、日本車としてはトヨタ、日産の工場があり、それに関連する企業も多く、1万人程度の邦人がいます。広州に住む邦人の子どもたちは、広州日本人学校だけでなく、アメリカンスクール等のインターナショナル校に通う児童生徒も多くいます。進学塾は2校と、日本語の公文が1教室あります。

広州日本人学校について

広州日本人学校は小学部、中学部が併設され、児童生徒数は450名程度でここ数年は微増の状態が続いています。私は3年生・6年生・4年生と担任をさせていただきました。10年ほど前に立派な校舎がたてられ、その後増築され、現在の形になっています。当初建てられた校舎には、体育館とプールが併設されています。そちらは、現在は中学部校舎として使われており、小学部の児童は中学部生徒の授業を廊下越しに眺めつつ体育館やプールへ移動するという光景が見られます。ちなみにこの中学部校舎の中庭には、バナナ・スターフルーツ・キウイの木があり、どれもよく実がなります。バナナは実が大きく育ったところで、現地お掃除スタッフの方によって刈り取られ、2週間ほど熟成させて食べます。日本に輸入されているバナナとは品種が違い、リンゴのような味わいが特徴です。

広州日本人学校での取り組み

3年目の4年生担任をした時に、現地教材を作ったので、紹介します。

日本人学校の特殊性から、生まれてからの殆どを中国・広州で過ごす児童もいれば、中国での生活がまだ3週間という児童までおり、その生育過程は全く違います。そこで社会科についての意識調査と共に、中国・広州、日本に関する意識調査を行いました。すると、総じて児童の意識としては中国に滞在していながらも、日本とは違い、現地広州に対する郷土としての思いは薄いのではないかという結果が浮かび上がってきました。

4年生は、「きょう土をひらく」で坂本養川や養川が切り拓いた用水について学習します。

そこでは、自分の住む地域をよくしていこうという先人の姿、苦勞や願いを学んできました。同様に中国・広州においても同様に地域の発展に尽くした先人がいることを学ばせていきたいと思い、辛亥革命の父である孫文と、それを影で支えた日本人、梅屋庄吉についての授業を行うことにしました。

二人を選んだ理由として、一つ目は、孫文は児童にとってなじみを感じやすいという点です。そもそも孫文は、広州市の南隣に位置する中山市に生まれました。そして、広州・マカオ・香港をはじめ日本においても活動しています。広州市内には孫文の名を冠する建物や記念碑などがあり、広州日本人学校の児童にとってはなじみやすい人物であるといえるのです。

二つ目は、日本人が革命に協力しているという点です。日本で活動したこともある孫文は、梅屋庄吉だけでなく、それ以外にも多くの協力者を得ていますが、特に梅屋庄吉の協力は影響が大きかったのです。また、財力だけでなく、梅屋が孫文の仲人を務めるなど人間的なつながりも深いです。自分と同じ国の先人が協力している様子を調べることで、児童はより身近に感じ、意欲をもって調べることができると考えました。さらに先人が全魂を傾けて国際協力に邁進したことを学ぶ過程で、様々なことを感じ、国際感覚を養うことができるのではないかと考えました。

同時に、以上の点だけでなく、この教材を通して、学童期に生活していた中国・広州、そして日本への誇りと郷土愛を育てていきたいと考えました。また、孫文と同じように自分も海外で学んだ帰国子女であるという点についても思いを馳せ、実生活の上での異文化理解、自分にしかできない国際協力等についても国際感覚を養うきっかけとしていけたらという願いも込めました。

一方、この単元では、孫文や梅屋庄吉の業績を中心に学習を進めることができるようにするため、本来であれば博物館や郷土資料館などを見学することがより良いのですが、それは現実的に難しいです。そこで教師が書籍やインターネット、各博物館等から資料を収集し、それをもとに児童が調べまとめていく過程を大切にしていきたいと考えました。

まとめの段階では、「孫文や梅屋庄吉たちの願いと苦心」が国の仕組みを変え、人々の生活を良くすることができたこと、またそれは自分たちが今住んでいる街の様子にもつながっていることにも触れていきました。今まで生活していた街の様子が改めて子どもたちの目にどう映るか、発言やつぶやき、感想文などからその中身のふくらみを評価していくことができました。また、現地中国の方に孫文を偉大に思っていること、孫文を助けた日本人に感謝していることを話していただき、理解をより深めさせることができました。